

# キャリア教育の充実に向けて ーキャリア・パスポートの活用ー

大阪府では、キャリア教育の充実に向けて小中9年間の系統的な取り組みを行うため、中学校区でキャリア教育全体指導計画を作成してきました。また、学校が子どもに「つきたい力」を明確にし、設定した「中心取り組み」の前後でその力がついたのかを検証し、取り組みの改善につなげていくことを進めています。

このリーフレットでは、キャリア教育で「つきたい力」を整理するとともに、キャリア・パスポートを活用した子どもたちの変容の確認や取り組みの検証へのつなげ方など、キャリア教育をさらに充実していくための具体例を紹介します。

## キャリア教育で「つきたい力」

国はキャリア教育で育む力を4つの「基礎的・汎用的能力」と示しています。大阪府では、これをふまえ、学習における5つの「つきたい力」として、学年ごとに系統性を整理しました。

### 「基礎的・汎用的能力」

#### 人間関係形成・社会形成能力

(例) 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等

#### 自己理解・自己管理能力

(例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、忍耐力、自己の動機付け、ストレスマネジメント、主体的行動等

#### 課題対応能力

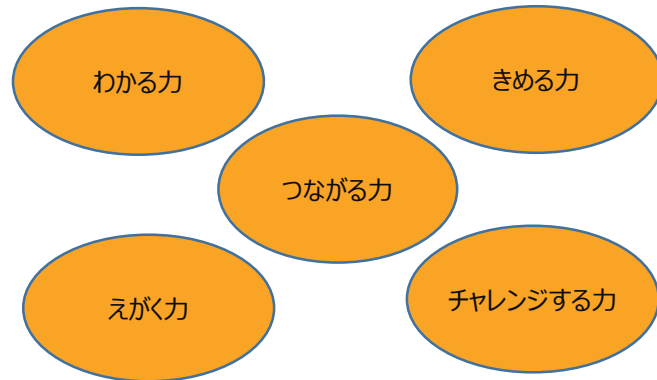
(例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追求、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

#### キャリアプランニング能力

(例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等

※国立教育政策研究所「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」

### 大阪府の5つの「つきたい力」



## キャリア教育として「つきたい力」の系統性

	小学校		中学校	
	就学前～低学年	中学年	高学年・中学1年生	中学2～3年生
つながる	自分のよさを見つける。 友だちとたくさん話を する。	自分のよさを見つける。 友だちの話を聞き、自分 の気持ちを伝える。	自分のよさを見つける。 相手の考えや気持ちを理 解し、自分のそれを、分 かりやすく伝える。	自分のよさを見つける。 相手の意見を尊重し、自 分の考えや気持ちを工夫 しながら伝える。
わかる	分からないことは、先生 や友だちに質問する。	分からないことや調べたい ことがあるとき、先生 や友だちに質問したり、 自分で調べたりする。	分からないことや知りた いことがあるとき、誰か に質問したり、自分で資 料や情報を集めたりして、 自分が納得する答えを見 つける。	分からないことや知りた いことがあるとき、誰か に質問したり、自分で資 料等の情報収集を行い、 周りも納得できる答えを 見つける。
きめる	自分の気持ちを知る。	自分の考えを持つ。	いくつかの情報を総合的 に判断して、自分の考え を持つ。	多様な進路の中から、自 分に適した進路を選択す る。
えがく	好きなことや、やりたい ことを見つける。	やってみたいことや目標 を見つける。	目標を立て、実現するた めの方法を考え、計画する。	自分の将来の夢や目標を 立て、実現するための方 法を考え、計画する。
チャレンジ	やりたいことに取り組む。	好きでないことにも取り 組む。	好きでないことや苦手なこ とにも、進んで取り組む。	失敗してもあきらめず、 困難なことにも挑戦する。

# キャリア・パスポートとは

子どもが、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成をふりかえったり、先を見通したりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ的な教材です。

## キャリア・パスポートの意義

子どもにとっては、ふりかえりの中で自らの変容に気づき、自己理解を深めるためのものとなり、また、それをふまえて将来の自分の姿をえがき、主体的に学びに向かう力をつけていくものになります。

教員にとっては、子どもが小学校から中学校、そして高等学校でどのような学びを積み重ね、成長してきたのか、子どもへの理解を深め、個に応じた系統的な指導に生かすためのものになります。

## 大阪府版キャリア・パスポート

キャリア・パスポートは各学校や学級において、創意工夫を生かした形での活用が可能ですが、その参考となるよう大阪府版キャリア・パスポートを作成しました。

- ① 学年初めに夢や1年間の目標を設定する (小学1年生を除く)
- ② 学期末・学年末に成長をふりかえる
- ③ 行事等取組みのふりかえりを記載する という内容にしています。

### 記入上の留意点・支援等



好きなことや夢中になっていることが、将来の希望や夢につながります。今の自分の好きなことを記入します。

「夢」には大人になって就いてみたい仕事だけでなく、「オリンピックに出たい」などの目標、「〇〇な大人になりたい」といったなりたい自分の姿など、様々なことが考えられます。すべてを認め、目標を設定できるように支援してください。

1年間でどんな自分になりたいか、ふりかえり項目(「つきたい力」)を参考にしながらイメージし、そのために何にチャレンジするか考えます。小学校高学年や中学生であれば、将来の夢や目標に向けて、チャレンジしたいことを考えさせても良いでしょう。

ふりかえり項目は、本リーフレット1ページ目の「キャリア教育として『つきたい力』の系統性」を基に作成しています。各中学校区の現状や課題、設定した「つきたい力」などに合わせて、項目を立ててください。各項目は「つきたい力」として学年初めに子どもと共有することが大切です。

学期末や学年末では、ふりかえり項目の結果を基にしたり、キャリア・パスポート3ページ以降の「ふりかえりカード」に記述した内容などを見たりしながら、ふりかえるよう支援してください。

### ① 小学校2年生の例

2年生 新しい学年がはじまりました

年 月 日  
くみ 名まえ

かいた日 年 月 日

◎いまのわたしについて、かんがえてみましょう。

(わたしのすがた)

わたしのすきなこと

わたしのゆめ

◎わたしがしようとおもっていること、チャレンジしたいことをかいてみましょう。

(学校で) (おうちで) (先生から)

### 1学きをふりかえりましょう

かいた日 年 月 日

あてはまるマークをぬりましょう。	そう おもう	すこし そう おもう	あまり そうおも わない	おもわ ない
①じぶんのよさを見つけられましたか。	☺	☺	☹	☹
②ともだちとたくさんはなをしましたか。	☺	☺	☹	☹
③わからないことは、先生やともだちにしつも んしましたか。	☺	☺	☹	☹
④じぶんの気持ちに気づくことができましたか。	☺	☺	☹	☹
⑤すきなことや、やりたいことを見つけましたか。	☺	☺	☹	☹
⑥やりたいことにとりくみましたか。	☺	☺	☹	☹

◎1学きのことをふりかえってかきましょう。

(学校で) (おうちで) (先生から)

ふりかえりについては、小学校3・4年生は、それぞれの時期で当てはまるところに「○」をつけることで、うつり変わりを確認できるようにしています。

小学校5年生以上では、より分かりやすくなるよう、折線グラフで示すようになっていきます。

1年間の自分のうつり変わりを確認し、「つきたい力」に対して、自分をふりかえるツールとして活用してください。

### ○小学校4年生の例

◎1年間のわたしのうつりかわりを見てみましょう。

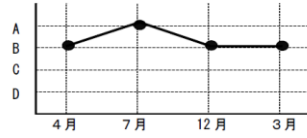
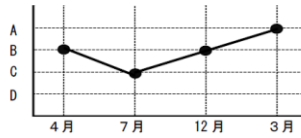
ふりかえり		4月	7月	12月	3月
		あてはまるところに、○をつけましょう。			
①自分のよさを見つけられましたか。	そう思う				○
	少しそう思う		○	○	
	あまりそう思わない	○			
②友だちの話を聞き、自分の気持ちをつたえましたか。	そう思う		○		
	少しそう思う	○			○
	あまりそう思わない			○	

### ○中学校3年生の例

◎1年間のわたしのうつり変わりをグラフで見てみましょう。

①自分のよさを見つけられましたか。

②相手の意見を尊重し、自分の考えや気持ちを工夫しながら伝えましたか。



「できた・できていない」だけでなく、チャレンジしたこと、努力したこと、気づき、書けるように支援してください。

1学期と内容が同じになる子どもには、本人の気づいていない努力などに気づかせたり、同じ努力を継続していることを肯定的に受け取ったりできるような言葉がけを行うのも良いでしょう。

キャリア・パスポート1ページめの「ふりかえり」で、1年間のうつり変わりを見ながら、自分の成長を確認します。変化しているところはなぜなのか、そこではどんな力がついたのかなど考えさせることも良いでしょう。また、活動のふりかえりカードなども合わせて、自分の成長を確認させるのも良いでしょう。

小学校6年生と中学校3年生では、18歳になった自分を想像しながら未来の自分へメッセージを書かせます。中学校3年生では、小学校6年生の時の自分との変化などを考えさせると良いでしょう。また、中学校2年生では、30歳になった自分を想像します。職場体験等の経験から、将来の自分を想像して書かせましょう。

### ②小学校6年生の例

学期・学年をふりかえりましょう

年 組  
名前

◎1学期のことをふりかえって書きましょう。

記入日 年 月 日

(学校で)

(先生から)

(家で)

◎2学期のことをふりかえって書きましょう。

記入日 年 月 日

(学校で)

(先生から)

(家で)

◎グラフで自分の変化を見ながら、1年間をふりかえって書いてみましょう。

記入日 年 月 日

(学校で)

(先生から)

◎18才のわたしへのメッセージ 今の思いを未来の18才の自分に伝えましょう。

.....

.....

.....

### ③中学校1年生の例

活動の名前 「〇〇〇〇」ふりかえりカード(1年生)

年 組  
名前

記入日 月 日

(先生から)

キャリア教育の「中心取組み」や運動会、学習発表会、宿泊学習など、特別活動等のふりかえりに活用できます。

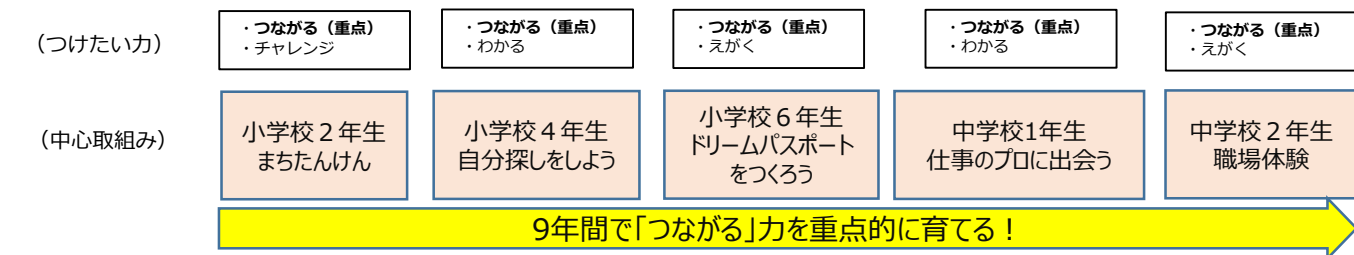


※大阪府版キャリア・パスポートは、あくまで一例です。中学校区や学校の現状等に合わせてカスタマイズしたり、創意工夫を生かしたりして活用してください。

## ～実践事例～

令和元年度に茨木市立西中学校区で行った「中心取組み」の設定と実際の取組み、キャリア・パスポートの活用事例などについて紹介します。

茨木市立西中学校区では、まず、中学校区のキャリア教育担当者が集まり、各校の「中心取組み」の確認を行いました。それぞれにおいてつきたい力が「つながる」、「きめる」、「わかる」など分かれていることに気づき、中学校区の現状や課題などについて整理し、「つきたい力」を絞り込むことにしました。その中で、地域の人やいろいろな仕事をしている人との出会い、仲間と一緒に活動することなどを通じ、人とつながることのよさを実感しながら、子どもたちに、なりたい自分の姿をえがいてもらいたいと考え、中学校区としての重点を「つながる力」とし、各学年の「中心取組み」を設定していきました。



## キャリア・パスポートの活用

- ・キャリア・パスポートに、「中心取組み」の事前・事後ふりかえりを取り入れ、取組みの成果や課題、子どもの変容を見取った。
- ・ふりかえりカードを活用し、子どもの記述から「中心取組み」による子どもの変容を丁寧に見取った。

ふりかえりカードに、「仲間ともっと仲良くなりたい」「自分の好きなところが増えた」といった感想が書かれていた。仲間どうしのつながりが深まったと感じる。  
(小学校教員)

今後は小学校で積み重ねてきたキャリア・パスポートを活用し、どんな力をつけてきたのか確認した上で、取組みの内容等の検討につなげていきたい。  
(中学校教員)

ふりかえり項目「自分にはよいところがあるか」では、肯定的回答が上昇した。取組みの成果を感じた。  
(小学校教員)

～（参考）小学校（中学校）学習指導要領 など～（平成29年3月告示）

### ○総則 解説編

中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること、こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりとその強みを發揮できるようにしていくことが必要とされた。また、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

### ○総則（小中共通）

児童（生徒）が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

※下線部分は、中学校のみ

### ○特別活動（小中共通）

〔学級活動〕

#### 2（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。